

このイベントでは、11のステージと13の体験・展示コーナーを設けた。

ステージでは、総合司会に気象予報士の加藤真奈美さんを迎え、各機関が防災に関するクイズやゲーム、講話などを行い、気軽に参加しながら防災知識を深めることができる内容とした。

オープニングに引き続いて行った「キャラクター大集合！君はどんな防災プロ？」では、各機関のキャラクター6体がステージ付近に集まり、防災に関する取組を紹介した。



オープニング（総合司会の加藤真奈美さんと各機関のキャラクター）

キャラクターは左から、はれるん（気象庁）、クー（北海道コカ・コーラボトリング株式会社）、消太君（北海道消防協会）、どこでもユキちゃん（北海道）、ベンベン（DCMホームマック株式会社）、アンリー（日本赤十字社）

このほかにも、ステージでは、日本気象予報士会による「お天気ランキングクイズ」と題し、実験を取り入れたクイズで気象に関する知識を解説した。総合司会で気象予報士でもある加藤真奈美さんは、「春に気をつけたい気象と防災のおはなし」と題し、融雪に伴う川の増水について分かりやすく解説した。気象台は、北海道大学大学院工学研究院の中嶋助教と登壇し、「地震を知り、地震に強い部屋をつくろう」と題したステージを行った。まず、気象防災部地震火山課の佐鯉津波防災係長から陸域の地震や緊急地震速報について解説し、北大の中嶋助教から地震に強い家具の配置について解説いただいた。



日本気象予報士会による「お天気ランキングクイズ」



加藤真奈美さんによる「春に気をつけたい気象と防災のおはなし」



北海道大学大学院工学研究院と札幌管区気象台による「地震を知り、地震に強い部屋をつくろう」（進行役：気象予報士 菅井貴子さん）

また、気象防災部予報課の青山予報官と UHB「みんなのテレビ」で気象キャスターを務める菅井貴子さんと「実は知らない！？天気予報と警報・注意報」と題し、天気予報ができるまでを菅井さんから、警報・注意報の意味や意図を気象台から解説した。平成26年の暴風雪の事例を取り上げ、イメージしやすく話を進めることができた。



気象予報士 菅井貴子さんと札幌管区気象台による「実は知らない！？天気予報と警報・注意報」

体験・展示コーナーでは、日本赤十字社による AEDの使い方の体験や国土地理院北海道地方測量部によるシミュレーターでドローンの操縦体験など防災に関する体験ができるコーナーや防災用品の展示を行うコーナーなどがあった。来場者の動線を考慮した配置にしたことや各コーナーにスタンプを設置しスタンプラリーを実施したことで、地下歩行通路から奥のコーナーにも人が流れていき、すべてのコーナーへ回っていただくことができた。気象台は、火山観測に用いる熱映像観測装置をメインに据え、道内の活火山や火山観測に関するパネルのほか、平成28年8月の大雨のパネルも掲示した。大きく映し出される自身の画像に興味を持って立ち寄りの方が多く、その流れで火山について紹介することができたので、分かりやすい展示が功を奏した結果となった。



「やってみてごらん AED」
(日本赤十字社)



「ドローンシミュレーターによる操縦体験」
(国土地理院北海道地方測量部)



「火山観測に使うカメラで温度を測ってみよう」(札幌管区気象台)

イベント当日、テレビ局5社（NHK、HBC、HTB、UHB、STV）、新聞社1社（北海道新聞）から取材を受け、ニュースで取り上げられた。昼に放送されたニュースを見て訪れたという方もいて、メディアによる広報効果は絶大と実感した。一方、「来場きっかけ」を問うアンケートでは、回答の7割が「通りかかり」であり、通行者の多い「チカホ」で行うことで、防災イベントへ行こう！と考えていなかった方にも多く参加いただけたことがうかがえる。併せて、アンケート回答者のほぼ全員（99%）が「このようなイベントにまた参加したい」とのことから、「多くの住民へ防災の普及啓発を図る」目的は達成されたと考えられる。

このように、官民の機関が協働でイベントを行うことで、「様々な」防災知識を普及啓発することができ、かつ、一機関あたりの負担軽減につながった。今後もこのようなイベントを同様な運営方法で行い、幅広い世代に普及啓発を継続していきたい。

(札幌管区気象台総務部業務課広報係)